

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

クロスメディアを総合力でプロデュースする

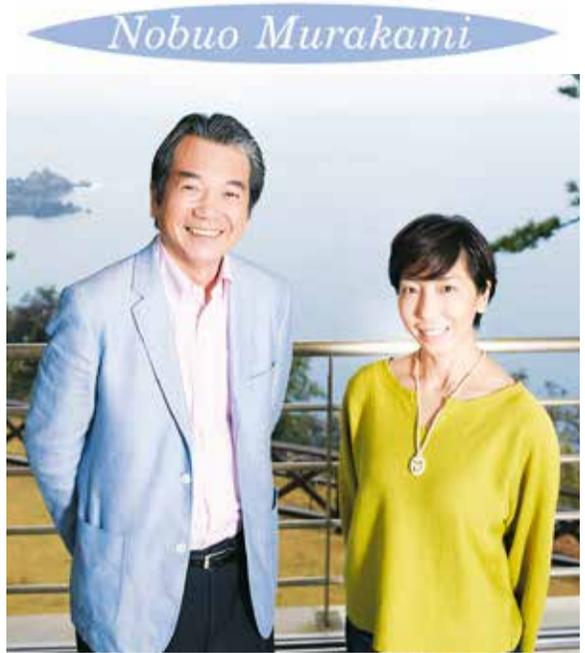
PTC GROUP

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500
<http://www.handa-cp.co.jp>

元氣のでてくる「ことばたち」

(210)



撮影・鶴崎燃

村上信夫

う競技もある。練習すると誰でも1分以上、最高7分くらい息を止められるようになるという。生物はもともと海から生まれたという遠い記憶を思い出させてくれるスポーツでもある。

かわからない。「ニュースでしか見ないような事件がある日突然、自分にも降りかかることがあるんだ」と思いました。

その翌年には大きな卵巣腫瘍が見つかって手術をした。良性だったが、取り出したら5キロもあって、破裂寸前だったそうだ。破裂していたら即死だった。

ことばで自分を作っていく 〜フリーダイバー 岡本美鈴さん〜

全身の筋肉を弛緩させ、目を閉じて浮いているだけで、皮膚と水、水と空気、空気と宇宙の境目もなくなって、自然や宇宙と一体になった感覚がある。「潜ると、空を自由にはばたく鳥になったような気分です」。

2年続けて、命に関わる経験をして人生観も変わった。

「それまでは当たり前前日か来る、来年があると思っていました。命には限りがあり、それが今日かもしれないと考えるようになりました。だからやりたいことは、すぐ実行しよう」と。

命に関わる出来事

僕は1995年の3月20日、NHKのニューススタジオで地下鉄サリン事件の第一報を伝えた。詳しい情報がなかなか入らず、緊張して胃が痛くなったことを覚えている。そのとき岡本さんは、当時勤めていた会社への通勤途上、あの地下鉄に乗っていて被害に遭った。築地駅で地下鉄が止まり、降りたホームでサリンを吸ってしまった。

あの日はたまたま先頭車両に乗っていて、駅の出口に近かったので早く外に出られたことが幸いした。サリンがまかれた後部車両に、いつもと同じように乗っていたら、どうなっていた

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。

現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」(毎週日曜10:00~)、月刊『清流』連載対談〜ときめきトークなどで、新たな境地を開いている。各地で『ことば磨き塾』主宰。

1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『嬉しいことばの種まき』『ことばのビタミン』(近代文藝社)『ラジオが好き!』(海竜社)など。趣味、将棋(二段)。

<http://murakaminobuo.com>

我らはでくなり

ダイビングを始めて、変わった。

「昔は目の前の小さなことに振り回されて、舞い上がった落ち込んだりしていました。以前はもの見方が変わってきたと思います。以前は人から嫌なことをいわれるとイラッとしていたのに、いまは客観的に自分を見ているもう一人の自分がいる。あれ? 私はいまイラッとしたな。なんでイラッとしたんだらうと。あれこれ考えているうちに、気持ちが落ち着いてきます。緊張したり感情が高ぶったりすると、酸素の消費量が多くなるというから、平常心が求められる。



俳画/イネ・セイミ

そんな思いにかられていた矢先、ダイビングと出合った。小笠原の海でイルカと一緒に泳ぐ人のテレビ番組を見て、イルカと泳ぎたいと。

「言葉で自分を作っていく。言葉で自分を引っぱり上げていく。潜るときは集中して進むんですが、帰りは疲労がたまると体が動かなくなります。しかも浮力より沈んでいく重力のほうが大きいので、強くキックしなければならぬ水深60メートルくらいで一度体の限界がやってくるので、誰もいないところで体も心も折れそうになります。そういうときに、自分に言葉をかけて気合いを入れると体が動くんです。『みんなに会いたい!会いに行くから待って!』と。極限状態になると、いろんな人の顔が浮かんでくるんですよ。」

海の中にいると、いろんなことに敏感にな

人は、ことばで磨かれる

好評発売中

イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

常滑屋

とき 俳画教室月二回 午後一時三十分〜三時三十分

会費 一回 一〇二五〇円(三ヶ月分前納)

問合せ ☎〇五六九(三五)〇四七〇

インディアンフルート教室

開講いたします

誰でも簡単に音が出せる楽器です。あなたも今日からインディアンフルート演奏家を目指しませんか?

講師 **イネ・セイミ**

(日本インディアンフルート協会ディレクター) ネイティブアメリカンのスピリットが感じられるインディアンフルート。その音色はやさしく心に響きます。レッスン30分4,000円 会場:半田市潮干町1番地の21

申込み 0569-89-7127 ine.seimi.jp@gmail.com

受講生募集!!

会場 マツイン楽器店 常滑店

時間 隔週木曜日(月2回) 10:00~11:00

形態 グループ

会費 1ヶ月8,802円(入会金5,400円)

詳しくはマツイン楽器店本社 教室係までフリーダイヤル:0120-37-5576

田村孟さんをめぐる (7) 杉本武之

(1) 篠島ロケの思い出

山口瞳のことをあれこれ書いてしまい、本題の田村孟さんとの篠島のロケの話から大きく外れ、とんだ道草を食ってしまいました。

これからは、脇道にそれることなく、篠島でのロケの思い出を書いていきます。

一番の思い出は、田村さんが島の旅館でマージャンのやり方を教えてくれたことです。

内藤さんも私も、学生時代、マージャンをしていませんでした。篠島での撮影は、のんびりしたもので、時間的にもゆとりがありました。田村さんとAさんとBさんの3人はマージャンが好きでした。よく3人でテーブルを囲んでいました。

しかし、4人でやる方が面白いらしく、何も知

らない内藤さんか私のどちらかを選んで、イロハから教えることになりました。これといった仕事の無い私の方が、時間的にも精神的にも余裕がありましたので、田村さんは、私に遊び方を教えることに決めました。

私を前に座らせて、田村さんは、シナリオ用の原稿用紙に濃い鉛筆でマージャンのルールの基本を書きながら、ゆつくり丁寧に説明してくれました。私は、彼の努力に応えたいと思い、何としてでもマージャンのやり方を覚えようと努力しました。

島を引き上げる頃には、何んとか相手の3人に迷惑を掛けないで参加できるようにになりました。

あの時にルールを書いたのもうたった何枚かの原稿用紙は、私の宝物として大切に家に持って帰った



ジュディ・オング(13歳)

『鳥からの眺め』の脚本も一緒に出てくればいいなあと思っています。

田村さんは風呂が好きでした。

旅館の風呂場は、同時に二人ぐらいいしか入れな

のですが、数年後、どこを探しても見つかりませんでした。捨てることは絶対にしてないので、どこかから、ひょっこり出てくるかも知れません。やはり行方が分からなくなった

小さいものでした。田村さんと一緒になることが何回かありました。二人だけの時は、お互いに個人的なことを話すことができませんでした。東大で主として何を研究したのか

田村さんが笑いながら言いました。

「杉本さんは体を強くしようんだね。ぼくの親父は、風呂に入っても絶対に体を洗わなかった。垢や皮膚の油を洗い落とすのは、体のために良くないと考えていたんですよ。親父の影響で、ぼくもあんまり洗わなくなっちゃったなあ」

私は、へえ、世の中には風呂に入っても絶対に体を洗わない人もいるんだなあ、と不思議に思っていたことを、今でも覚えています。

私が京都でぶらぶらと怠惰な生活をしていることを聞いて、「東京に出て来て、一緒に働かないか」と言われたことがありました。

私は、東京という場所が何となく怖かったので、言葉を濁していました。そのうちに、その話は立ち消えになりました。

それから6年後、私は小学校の教師になりました。31歳の時に愛知教育大学を受験し、合格しました。4年間学んで卒業し、それから25年間、西尾市の小中学校で教師として働きました。

あの時、田村さんの誘いを受け入れていたら、東京で田村さんたちと一緒に仕事をしていた可能性もあったのです。そうしないので、数年後、私は小学校の教師になる道を選択しました。教師生活を送ることになった私の生き方は、あれはあれで正しかったし、とても楽しく充実したものでした。創作の能力に恵まれていない私には、映画作りよりも、小学校教師の方が自分にふさわしい職業だったように思います。

篠島でのロケの間、田村孟さんは、いつも優しい人でした。

新藤兼人も『弔辞』の中でこう書いています。

「田村孟は、ほんとうに優しい心をもった人だ。彼女が目を上げて私を

(2) ジュディ・オングさん

田村孟さんから、ジュディ・オングの写真を一枚貰いました。

私たちが制作スタッフで島に到着した翌日に、ジュディ・オングたちが島にやって来ました。いよいよ撮影開始です。

彼女の側には常にお母さんが付き添っていました。臆病な私は、この美しく気品のある親子に気軽に話しかけることができませんでした。

島にいる間に、ジュディ・オングと二人で話すことができたのは、たった一回だけでした。旅館の中か外か記憶していませんが、彼女が何か本を読んでいる前を、私が通りかかった時のことでした。

「何を読んでいるの？」と聞きまして。

彼女は目を上げて私を見ると、本の表紙を見せました。英語の本で「S C I E N C E」と書いてありました。

「ああ、科学の本ですか。難しいでしょう？」と聞きました。

彼女は、笑いながら、「これ、理科の教科書なんです」と答えました。

その時、13歳だったジュディ・オングは、アメリカン・スクールに行っていました。英語しか使われていない学校だったのです。そして、その本は、その学校の「理科」の教科書だったのです。

他にも話した筈ですが、教科書以外のことは何一つとして記憶に残っていません。

ある日、田村さんが私に向かって、「ジュディ・オングは可愛いでしょう？好きになっちゃうでしょう？」と聞きました。

「そうですね、利口そうですね」

すると、田村さんは「確か、あの子の写真が一枚本さんに差し上げますよ」

と云って、何かのドラマに出ていて、生き生きした表情の彼女の写真を私に手渡しました。

その写真は、田村さんがマージャンのルールを書いていた原稿用紙や脚本とは違って、今でも私の手元に残っています。

ジュディ・オングは、その後、歌手としても有名になりました。「魅せられて」という曲が大ヒットしました。歌謡番組は滅多に見ない私ですが、彼女が出演する番組を見ることはありました。

また、彼女は現在では一流の版画家にもなっています。

この指とまれ

昭和51年度 三年三組の学級通信「なかよし」氏原朝信

弁当作り

I・N女の母 給食のセンターの都合で四日間弁当持ちとのこと。幼稚園に通う長男だけのこと。思い、「まあ、何とかやるわ。幼稚園は朝がゆつくりだから」と思っていた矢先、学校も弁当持ちと聞き、いささかがつくり、朝寝坊の私には大変なこと。でも、愛する我が子のため、目覚まし時計を？時に合わせ、弁当作りは楽しいものを作ろうかと子どもと相談し迷った末、初日は、ウインナーと卵焼きと決まり、ちよつとでも美味しく

見せようとタコやカニの形に気を配り、配色よく詰めました。「おにぎりは自分で作る」ということなので作らせました。結構うまく作るのには驚きました。五年生のいここに習ったことでした。

明日は二日目、エビフライ、サラダ、ご飯の上には卵とカニのおぼろを振りかける。子どもたちが美味しそうに食べる顔を想像しながらの弁当作りは楽しいものになりました。

子どもが学校から帰ってくるのを待ち兼ねて「お帰り、今日の弁当、どうだった

三年の終わりに

H・A女の母 「行ってきます」「ただいま」と送り出し、迎えて一年間が過ぎようとしています。三年生になってからの月日がとても早く感じたように思われるのは、親子も学校生活の馴れがあつたのでしょいか。親として忙しさに怠けていて、反省が先立ってしまいます。

今、我が子の姿を見、なにかと振り返ってみると、心身共に大きく成長した年

だったと思います。

今まで自己中心で物事を考えることが多かったのに、最近の学校での出来事を話す言葉の端々に、友達やグループのことが考えられるようになってきました。これからは自分だけ良ければという考えではなく、皆ができたことを喜べる子に育ててほしいと願っています。

困難なこと、苦しいことが克服し、進んでいく力を養っていくことこそ、これから親としての課題としたものです。

た」と真つ先に聞き、「おしかった、全部食べちゃった」の返事でうれしくなり、「よし明日も作るぞ」とフアイトがわきました。私つて単純なかしら。

旅館の風呂場は、同時に二人ぐらいいしか入れな

体洗っているのを見て

も聞いてみました。いわゆる古典ではなくて、明治以降の近代文学を卒論のテーマに選んだ、と話してくれました。

私が石鹸でのごしごし



料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

簡単! 赤しやえびのかき揚げ

春ですな! 殻ごと丸ごと食べられる小さいサイズのえびを見つけると、これを作りたくなっちゃうのです!

(4人分)

- 赤しやえび(小さいもの)…30匹ほど(水洗いし、ひげ、つ(頭の先)尾のとが(いる所を切り落とし、水気をペーパーでとる)
- 白ねぎ…1本…根を切り4~5cmの斜め切り
- 水 菜 …ひとにぎり程…根を切り4~5cmのざく切り

【天ぷら衣】

- 薄力粉…1カップ
- ベーキングパウダー…ティースプーン1/2
- ①薄力粉とベーキングパウダーをボールに入れ菜ばして混ぜる。
- 冷 水…1/2カップ
- ②冷水を一気に加え菜ばしてつづく様に混ぜ合わせていく。
- 冷 水…1/2カップ
- ③冷水を粉つばい所に少しずつ入れ、菜ばしてつづく様に混ぜ合わせていく。混ぜすぎない様に注意! 粉つばい状態でOK

【作り方】

- 深目の鍋に油を入れ160~170℃にする。
- お玉に白ねぎ、水菜を乗せえびも3匹ほど乗せて、その中に天ぷら衣をたらす。菜ばして衣がからまる様である。
- ①の中にお玉ごと②に入れ、お玉から②を菜ばしてはずす。バラバラにならない様、鍋ぶちに寄せながら、外周りが固まったら、中央を菜ばしてつづく。(小さな穴をあける様につづく中央もパリッと仕上がります)
- ③がぶくくと浮きあがったら裏返し、色が少しついたら油から引き上げる。
- 塩・ほん酢など用意していただきます。天つゆを用意してかき揚げ丼にしても美味しいです。

5220

- ◎常滑市民文化会館
- ▼スタインウェイピアノの演奏会
- ▼コンサート「二十三日(由)午前十時~午後八時 関係者のみ」
- ◎とこなめ陶の森資料館
- ◎企画展「常滑の超絶技巧」(五月八日(日))
- ◎常滑市立図書館
- ▼らくがき会(水彩画) 十四日(水) 十三日(火)
- ▼炎友会とその友人展「焼き物写真展(俳句等) 二十四日(水) 二十五日(木) 祝
- ◎常滑市体育館
- ▼卓球個人強化リーグ 九日(日)
- ▼尾東地区卓球普及団体リーグ 十日(日)
- ▼全知多スプリングカップ 9日(日)
- 人制バレーボール大会 二十四日(日)
- ▼第70回愛知県高校総体バスケットボール競技知多支部予選会 二十九日(金) 祝
- ◎青海公民館
- ▼やぎセンター長誕生日会開催 十日(日) 午前十時~正午
- ※雨天は中止になります
- 場所 青海公民館野分ステーション
- 内容 センター長の1歳の誕生日を祝おう。やぎとのふれあいをテーマにしたお絵かきクイズ等のイベントも行います。対象者 全年齢 参加費 無料 問合せ 青海公民館 ☎4316622
- ◎知多市子ども未来館
- ▼キッズルーム第一期 申込み 一日(日) 十日(日) 同館へ
- ▼キッズルーム2 五月十日~七月十二日の火曜日 全十回コース
- ▼キッズルーム3 あひるの親子 四月十五日~七月二十九日の金曜日 全十五回コース
- ▼キッズルーム4 キッズ・イブニング 五月十二日~七月十四日の木曜日 全十回コース
- ▼キッズルーム5 あひるの親子 五月十日~七月二十九日の金曜日 全十五回コース
- ▼キッズルーム6 キッズ・イブニング 五月十二日~七月十四日の木曜日 全十回コース

大阪屋葬祭

誠意をこめて安心のお手強い 年中無休・24時間体制

常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール

TEL 0569-35-4949 (代表)

FAX 35-4911

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380 TEL0569-73-6341

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380 TEL0569-73-6341

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

—自分ドラマつくろう— (60) 岡田 清治

嫁の就職2

舞はふと母親の顔を思い浮かべたように見えたが、それ以上多くは語らなかつた。その理由はわからない。が、子どもなら手記には嫌と思う文面もあつたに違いないと真三は舞の気持ちを思はかつた。ただ、それとは別に舞の父親は社会部の記者だつたから本当のこと、真実を書き遺したかつたという思いが強いから残された家族への配慮が薄れると、真三には思われた。

父親の遺した手記は大手出版社から自費出版したものだ。もし、家族にだけに遺したいなら出版などはしないものだ。ということはこの手記は他人、つまりは多く売ってほしいという思いがある。もつと言え、高齡パパのしんどさ、難しさを訴えているのだらうと想像した。出版の相談を受けた真三は原稿に目を通して、「健太郎ならこれまでの実績や付き合いからいくらでも出版の相談にのってくれる知人は多いのではないかと」と、苦手な相談内容に反論をにじませた。

「確かにそうで、いくつか出版社にもあつたが、断られた」
「なぜ、断られたと思う？」
「……」
しばらく黙っていたが、

「要は売れないと判断したのだらう」
「そうだらうな。だけど内容が面白いというか、興味を覚えたならリスクを冒しても刊行するのではないか」
「真三兄は読書好きだから、この原稿が本になつたら買うか」

弟の健太郎は真三の意見次第で決断する様子もうかがえた。ここは本当の気持ちを伝えることがいだらうと、率直な意見を述べた。
「だいたい、パパなんていうのは新婚ほやほやの、若い夫婦がいらないが、初老の男が使う呼称としては似合っていない。おそらくまだ幼児の娘に遺したい思いから、そういう言い方になつたのではないかと、思つたが……」

もしそうだとするならば、お前は初老の身分で若い嫁さんめとつていい御身分だと他人は思つたらうな。いくら女房に代わつて育児をしたとか、慣れないことが多いからといって、「大変だ大変だ」といつても誰も感動しない。育児を男の目線で見ると、知らないこと、興味を覚えることが書かれているとしても、どれほどの読者がいるのだらうか。初老の男性向けに書いているのだらうか、「よくやるな」と思われても、それをノウハウ本とは受け取らないのではないか。
健太郎は黙つて兄から聞ききびしい声に耳を傾けていた。

真三はそこまで言つたのだから提案すべきではないかと、ひと呼吸おいてゆっくり思いつくまに話していった。

元新聞記者の肩書きなら、誰もが知らない社内外の確執、事件を自分が働いている環境、社会的な位置づけの中で、高齡化社会の矛盾、また自分が取り組んだ、いまままで書けなかつた取材内容を伝えるなら、ある意味で出版人も興味をもつのではないか。つまり執筆者があらゆる束縛からとかれて、どこまで裸になれるかだと思つた。

だから物書きはある意味、命がけになるのだらう。赤裸々に描くことによつて家庭は崩壊する危険はある。また会社も迷惑を感じたら予防線を張るだらう。下手したら名誉棄損で訴えられるかもしれない。そこまでリスクを冒して書き遺す意義があるのか、どうかだよ。いくら新聞記者といつても長年、禄を得てきたのだから、そう簡単に裏切れないはずだ。裏切らないまでも、



写真：渥美半島(著者撮影)

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX: 0569-34-7971
メール: takamisuu@kai-shinbun.net



プロフィール

著者・岡田清治おかせいじ
一九四二年生まれ ジャーナリスト
(編集)ロダクシオンNET108代表
著書に『高野山開創二百年いっばんさん行状記』『心の遺言』あなただは社員の全能を引き出せますか！『リヨンで見た虹』など多数

本筋のことが書けるかという問題があるはずだ。

「このような内容の本はないと思うのだが……」
「だいたい、お前が離婚したことについて何も触れていない。俺なんかはいまだに、どうして別れたのか理解できない。当時はなんとか相手を説得して懸命に引きとめようとしたが、結局、無駄骨だった」
「……」

「読者は初老の育児奮闘ぶりより、中高年サラリーマンが離婚を決定する心の葛藤の方によほど興味がかかると思うよ。最後の章で書いている特別養護老人ホームの取材には、さすがだと思つた。こうした社会問題に鋭く切り込んでいってこそ、お前らしいものになるのではないか」

手記を読む

新聞記者時代、特別養護老人ホームを訪ねたことがある。お年寄りが入所する際にホームに預けた預貯金通帳を職員が持ち出し、勝手に引き出して使つていくとある。お年寄りの孫と偽り、面会人を装つてホームにもぐり込んだ。入つて驚いた。外観とほうらはらに、狭い部屋に大勢のお年寄りが詰め込まれるようにして寝ていた。縛られている人も少なくないようだ。

顔なじみになつたお年寄りや雑談をしていくと、おばあさんが顔を曇らせた。どうしたものかと不安になつたが、話を聞いてこちらも悲しくなつた。
このホームでは月に一回、バスで買物に出かけるといふ。お年寄りの孫の偽り、面会人を装つてホームにもぐり込んだ。入つて驚いた。外観とほうらはらに、狭い部屋に大勢のお年寄りが詰め込まれるようにして寝ていた。縛られている人も少なくないようだ。

泣きそうになつて顔を、私は見ておれなくなつた。景色が良くても辺りな場所だけに、身内が訪ねてくることも少ない。預けつ放しにされているお年寄りの多いらしく、それが使い込みの背景になつていふと思われた。老人ホームの取材を終えたあと、私はお年寄りを預けている家庭を訪ね歩いた。そこでもまた驚かされた。大学教授や病院長など地位も名誉もある人が、「うちは預けていない」とかたくなに言い張るのだ。どうやら親を老人ホームへ放り出したと思われたいくないらしいのだと推察し、それ以上深入りはしなかつた。

かなりましな老人ホームと言われているけど、こんなあり様だ。私は老いの悲惨な実態を垣間見て暗たんとした気分になつた。介護保険制度がスタートしたりして老人問題に社会の関心は高まつたものの、お年寄りに一人の人間として接する環境は、まだしっかりと育つていないように思える。

手記のホーム取材はそこで終わつていく。
老人ホームの不祥事はいままたえず報道されている。なぜ、不祥事が起きるのか、その背景はあまり報じられない。多くの視点は老人という弱い立場からである。施設は事業として運営しているのだから、当然コスト計算が働く。建物の建設維持費、光熱費、食事の材料費、人件費、利益等の項目は真三が経営していたファミレスと同じだ。ただ違うのはファミレスは食事の提供だが、ホームはサービスの提供、それも多種多様な人生を経験してきた人間が相手である。ファミレスとホームの従業員も意識、技量、資格の有無など、まるで違う。ホームの介護士の仕事の方がはるかに大変である。当然、待遇も良くなつていふと思われているが、仕事内容に見合ったレベルの賃金が支払われていないのが実情である。

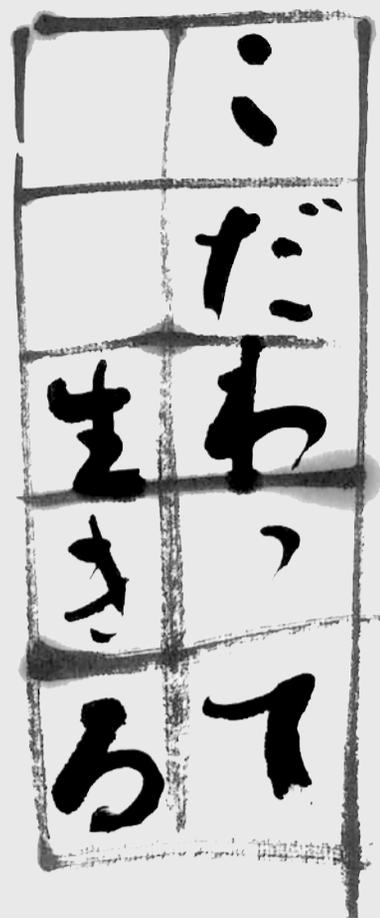
医療の世界も闇に覆われている。手術や投薬のミスは数え切れない、患者や家族の負担は重くなる一方だ。何よりも怖いのは、自分がどうされるのか、何が起きていくのかさっぱり分からないことである。弱い立場の患者の人権などなきに等しい現実も重なり、入院や手術と聞くと、震え上がつてしまふと健太郎は病魔に襲われているのか、入院の怖さにも触れていた。

真三はこの手記を読み返しながら、健太郎が入院してから植物人間になつた過程を裕子と医師の説明を聞きながら理解に努めたことを思い出した。思えば、健太郎の最後は本意であつたに違いない。おそらく植物人間になるとわかつた瞬間にすべてを終わらせたいと思つたに違いない。だが、それは本人の意思とは別な力学が働く。

医師は終焉だと思つても、遺族の同意がなければ医療活動を止められない。中止すれば殺人罪に問われることもある。だから最後は裕子と舞の判断に委ねられることになつた。もう理屈ではない。感情の世界に入り込んでしまった。結論は「医療を続けてほしい」ということだつた。
真三はある時、友人に誘われてその頃全国的に珍しい障害者の施設を他県に見学に出かけたことがある。その施設は丘陵地に建てられていた。
「障害者の方々や家族の一員として生活を共にしてきてました。それは同じ箸で同じものを食べ、同じ風呂に入り生活を共有してあり、彼らを『家族』と呼んでまいりました」と、創業者のK氏は真三に話しかけた。

設立認可で役所に出向くと「Kさん、障害者施設の計画はいいですが、周辺住民の了解はえられますか」と担当者から疑問を投げかけられた。当時は障害者に対する国民の理解はほとんどなかった。その後時代も徐々に変化し、障害者への理解も深まり出した。申請して六年後に社会福祉法人の施設として認可された。かくして一番難しいとされる重度身障者五〇人定員の施設を建設、開設したのである。

絵手紙集



絵文 椋山善久

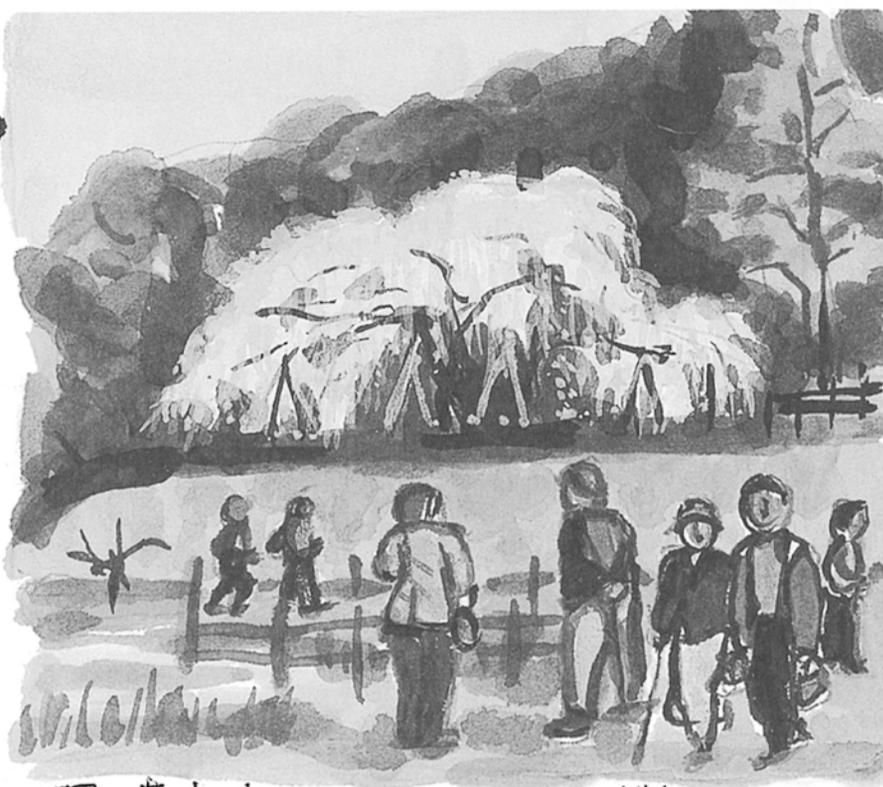
返文 小林玲子

椋山善久

昭和十一年碧南市で生まれる。
丸栄陶業株式会社代表取締役。
碧南商工会議所会頭。
愛知県陶器瓦工業組合理事長。
全国陶器瓦工業組合連合会理事長などを歴任。
平成二十二年旭日小授章受賞。
平成二十二年旭日小授章受賞。
丸栄陶業株式会社取締役会長現在に至る。
京都造形芸術大学・通信教育部芸術学部美術科・
洋画コース大学院修士課程二回生。

小林玲子

碧南市に育つ。
西尾市在住
共著「西尾の民話」
童話「サケの子ピッチ」
随筆「海辺のそよ風」
(中経コラム「閑人帳」より)
ミュージカル脚本
「みぐりちゃんのおうち」ほか



岡崎市奥山田の枝垂れ桜

あちこちと
桜便りを
追かけて



日本には、古来大人の遊びとして
花札があり、その絵柄は一月松
二月梅、三月桜、四月ササとあり
ますが、四月の初旬に入りこの
地オモヤフと桜が満開となりま
した。早速震災被災地の方々に
桜が満開の絵手紙で少しでも
心が癒されなにかと思ひ岡崎
奥山田の枝垂れ桜を描きました。
場所は岩津天神をぬけて北東の
方向にあり、岡崎公園のソメイ
ヨシノよりも早く咲き始め、浅紅白
色の美しい花は豪華絢爛です。
樹齢千三百年とありました。

巨木を訪ねる旅がしたいと兼々思っておりますが
見事な桜をお便りに拝し拍手打ちたき思います。
人間の巨樹のような岡島先生と悠久子様の後姿も活写さ
れていていい絵でございますね。
流石、奥様のイメージがそっくり出ていて
老先生との会話が聞こえて参ります。
春が来てもなかなか桜を見に行くゆとりを
持てない身が淋しいですが
少しの努力で吾も人も楽しませることが出来る絵手紙。
やはり椋山様の存在は貴重です。
お元気で活躍下さいませ。

